

インフォメーション・コーナー

九州地方や中部地方などの全国各地で続く梅雨前線に伴う令和2年7月豪雨により、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げるとともに、家屋や農地などの被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を祈念しております。

令和2年7月豪雨災害対策本部の設置について

農業農村工学会では、令和2年7月豪雨災害に対応するため、対策本部（本部長は災害対応特別委員会委員長 青山威康京都大学名誉教授）を設置しました。調査結果等の情報収集・公表、復興支援対策を一元化するとともに、今後の支援活動を進めてまいります。

会 告

○研究部会長の交代	68
○2021年度農業農村工学会賞候補の推薦（再） 締切 10月31日	68
○サマーセミナー 2020参加者募集！ 8月28, 29日開催	69
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	70
○CPD 機構から重要なお知らせ（再）	70
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	70
○2021年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9月30日	71
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	72
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局	73
○令和2年度東北支部総会・第62回東北支部研究発表会ならびに第52回東北支部研修会・ 第42回地方講習会の開催（第3報） 発表申込締切 9月18日	74
○第71回関東支部大会の開催（第2報） 参加申込締切 9月30日	75
○第75回中国四国支部講演会ならびに第44回地方講習会の開催（第2報） 検討中	76
○第6回理論応用力学シンポジウム—若手研究者シンポジウム—の開催 9月1～3日開催	76
○第12回梶木賞論文の募集 応募締切 10月30日	77
○第23回（2021年）「日本水大賞」の募集 応募締切 10月31日	77
農業農村工学会論文集 内容紹介	78
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧	79
学会記事	81

第88巻第9号予定

展望：中嶋 勇

小特集：農業用ため池の持続的な保全管理手法

報文：GIS解析による中山間小規模ため池の草刈り状況推定モデル：李 相潤ほか

報文：高齢農業土木技術者によるため池保全活動：近田昌樹

報文：簡易なため池水収支モデルによる渇水・豪雨リスクの地域性評価：谷口智之ほか

報文：降雨特性を織り込んだため池の減災対策効果の評価：吉迫 宏ほか

報文：ため池事前放流で確保できる雨水貯留容量の推定とその評価：田中丸治哉ほか

報文：ため池の洪水軽減効果の簡易推定法：田中丸治哉ほか

報文：持続的な参加型保全管理に向けた農業用ため池の魅力調査法：堀川洋子

技術リポート

北海道支部：ジャイロプレス工法を用いた橋梁補修の施工：大西雅也ほか

東北支部：区画整理工事における情報化施工事例：渡部紘宣ほか

関東支部：上野原用水路トンネルにおけるミニシールド工法の施工事例：大久保治彦ほか

京都支部：集中荷重に対応した農用水パイプの採用：大西正晃ほか

中国四国支部：徳島県農業版業務継続計画（農業版BCP）の紹介：大西啓之

九州沖縄支部：成瀬地区における地すべりの安定化に向けた取組み：溝口富士男ほか

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちいたしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年 8月25～27日	大会運営委員会	2020年度(第69回)農業農村工学会 大会講演会 ⓑ	—	Web形態	87巻12号88巻 1,4,7,8号
2020年 8月28, 29日	農業農村工学サマー セミナー実行委員会	サマーセミナー2020	農業農村工学のすゝ め～オンラインでつ ながら2020	Web形態	88巻8号
2020年 11月9～22日	東北支部	令和2年度総会・第62回研究発表会・ 第52回研修会・第42回地方講習会 ⓑ	—	Web形態	88巻6,7,8号
2020年11月 11, 12日	京都支部	第77回支部研究発表会 ⓑ	—	福井市	88巻4,6号
2020年11月 12, 13日	九州沖縄支部	令和2年度支部大会 ⓑ	—	長崎市	88巻4号
2020年 11月18日～	関東支部	第71回支部大会 ⓑ	—	Web形態	88巻6,8号
検討中	中国四国支部	第75回講演会・第44回地方講習会 ⓑ	—	Web形態	88巻5,8号

研究部会長の交代

2020年6月1日付で下記研究部会長が交代しました。

記

応用水理研究部会

新部会長 一恩 英二(石川県立大学生物資源環境学部教授)

前部会長 稲垣 仁根

2021年度農業農村工学会賞候補の推薦(再)

2021年度の農業農村工学会賞(上野賞, 沢田賞を除く)を、
募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。

は学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)をご参照
ください。

締切は、2020年10月末日です。推薦書様式および授賞規程

2021年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する研究業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2015年10月から2020年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2017年10月から2020年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2017年10月から2020年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2019年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2019年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2018年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2015年10月から2020年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種類	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2010年10月から2020年9月までに発表されたものとする。	2015年10月から2020年9月までにを行った活動とする。	2018年10月から2020年9月までにを行った活動とする。	2015年10月から2020年9月までにを行った活動とする。	2015年10月から2020年9月までにを行ったものとする。	2015年10月から2020年9月までにを行ったものとする。	2018年10月から2020年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2020年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際学会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2021年度（第70回）農業農村工学学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2020年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 公益社団法人農業農村工学学会賞選考委員会宛							

サマーセミナー 2020 参加者募集！

農業農村工学のすゝめ～オンラインでつながる 2020～

農業農村工学サマーセミナー実行委員会です。サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者間の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度の大会講演会は初のオンラインによる開催ですので、【農業農村工学のすゝめ～オンラインでつながる 2020～】をメインテーマに、ディスカッションを行いたいと思います。この機会に農業農村工学の課題や昨今の社会情勢が農業へ及ぼす影響を考えてみませんか？

他大学の学生や他機関の研究者と議論をしてみたい方、同じ農業農村工学を学ぶ学生・研究者と交流したい方、まだ研究室に所属していないけれど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どんな方でも大歓迎です。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

1. 主催

農業農村工学サマーセミナー 2020 実行委員会

- 鈴木友志（京都大学大学院農学研究科）
- 辰野宇大（東京大学大学院農学生命科学研究科）
- 浅田洋平（東京大学大学院農学生命科学研究科）
- 松田壮顕（京都大学大学院農学研究科）
- 大山幸輝（鳥取大学大学院連合農学研究科）
- 加藤 諭（鳥取大学大学院連合農学研究科）
- 牧 貴広（佐賀大学大学院農学研究科）

- 中島綾美（佐賀大学大学院農学研究科）
- 森田くるみ（鹿児島大学大学院農林水産学研究科）
- 中野瑞希（鹿児島大学大学院農林水産学研究科）

2. 日時 2020年8月28日（金）夕方～29日（土）夕方
3. 対象 学部学生、大学院生、若手研究者、若手社会人
4. 参加費 無料（オンライン開催のため、通信費等はかかりません）
5. 企画内容
 - 1日目 自己紹介・アイスブレイク
 - 2日目 グループディスカッション
 グループディスカッションでは「社会情勢」、「ICT 技術」と農業農村工学のかかわりについて議論していきます。
6. 詳細・参加申込み

サマーセミナーの詳細や、参加申込みフォームは以下のホームページで公開しています。

参加申し込み期間：8月中旬まで（詳しくはホームページで公開予定）

URL：<https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>

7. お問い合わせ

Email：n.n.summer.seminar@gmail.com

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2020年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮に資する技術開発

③ ①、②以外の分野および学際的分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

⑤ 若手研究者の育成の推進

⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

⑦ その他(学会に一任)

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

CPD 機構から重要なお知らせ (再)

農業農村工学会継続教育部



1. 2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版) は pdf の掲載となります

CPD 登録者様へのサービスとして、前年度分の「CPD 取得一覧表」について、紙媒体による発送(8月に途中経過版・11月に最終確定版)と、Web上のpdfでの掲載(11月の最終確定版のみ)をさせていただいていましたが、CPD 登録者様へのサービス向上と新型コロナウイルス感染防止による業務遅延を防ぐため、2020年8月に予定していた2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版)の発送は行わず、Web上のpdf掲載に代えさせていただきます。なお、2019年度分「CPD 取得一覧表」(最終確定版)は従来通り11月に発送予定です。

前年度の「CPD 取得一覧表」	これまで		2020年度	
	紙媒体発送	Web上 pdf	紙媒体発送	Web上 pdf
8月(途中経過版)	○	×	×	○
11月(最終確定版)	○	○	○	○

2019年度分「CPD 取得一覧表」(途中経過版)が必要な方は、2020年8月以降に技術者継続教育機構のホームページ画面から各自、次の手順によりダウンロードをお願いいたします。

■ Webシステムを利用する > ⇒ Web利用メニュー画面へ > Web利用メニューへ > ログイン > ○ CPD取得一覧表のダウンロード > ○ 2019年度分一覧表 > ダウンロード

2. 前年度のCPD記録の申請期限の変更について(2021年度より)

これまで、前年度の研鑽記録の申請期限を「翌年度の8月末日」としていましたが、多くのCPD登録者様から「前年度のCPD結果の確定を早くしてもらいたい」との要望があることから、2021年度より、前年度の研鑽記録の申請期限を「翌年度の6月末日」に変更し、前年度の審査結果の早期確定を図ります。2020年度記録の申請期限は「2021年6月30日」となりますので、研修受講や自己学習の実施後は、速やかにWeb登録をお願いします。

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機

構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得でき

る方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水士の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等

の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌8号掲載の問題は9月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2021年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2021年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第89巻（2021年第1～12号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4サイズも含まれます。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に

限って画像データを送っていただきます。一点につき5MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 2020年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第89巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2021年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文（500字程度）をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1点につき1万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご

注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼

付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」, 「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

なお、投稿表・内容紹介・本文(テンプレート)の各ファイル(Word)を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

学会誌第 88, 89 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 (A4 判 1,500 字以内)
第 88 巻第 9 号 農業用ため池の持続的な保全管理手法 (仮)	終了
10 号 高品質化・高収益化のための水管理・灌漑技術 (仮)	終了
11 号 農業水利施設における外来生物対策 (仮)	終了
12 号 農業農村工学分野の海外社会実装事例—中村 哲医師を偲ぶ— (仮)	終了
第 89 巻第 1 号 農業農村工学における ICT 利活用の現状と将来展望 (仮)	終了
2 号 中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学 (仮)	8 月 10 日
3 号 地域資源の活用による中山間地域の地域活性化 (仮)	9 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

第 89 巻第 2 号テーマ「中山間地域における水路インフラの保全・活用と農業農村工学」(仮)

山腹水路をはじめとして、中山間地域に造成された水路は、生産環境、生活環境、自然環境の面で重要な役割を果たしています。第 88 巻第 8 号で小特集を行ったテーマである「多様な主体が住み続けられる農村」としての中山間地域を目指す上では、これらの水路の保全管理が重要です。

水路の持続的な保全管理を通して、農林地やそれを取り巻く環境が維持されれば、中山間地域を含む流域上流部が持つ、洪水防止や水源涵養、土壌浸食防止などの生態系サービス(農林地の持つ多面的機能)の発現も期待されるため、その果たす役割は大きいといえます。

しかし、中山間地域の収益の低さ、管理の困難さや利便性の低さから、若年層などが都市部へ移住するなど、地域の人口減少や高齢化によって産業が弱体化し、それに伴って水路施設の維持・管理ができず、老朽化が深刻です。また近年の ICT 導入による精密農業への取組みについても、生産性・収益性の観点から、インフラ整備が難しい中山間地域には目を向けられず

取り残され、水路などの管理不全が課題となっています。

本小特集では、中山間地域における水路インフラの保全・管理の必要性・重要性に向けた議論を活性化の上で参考となる報文を広く会員の皆様から募集します。特に農業農村工学分野に関係の深い、

- ① 収益性の低い中山間地域の生産・生活用インフラの一つである水路を保全する理由は何か?
- ② 山腹水路の持つ今まで気が付かなかった価値は何か?
- ③ 生産・生活用インフラとしての水路保全という視点を離れ、農業遺産のような伝統的・歴史的価値に視点を移して保全・管理の資源を使った方が良いのか?

などを考えるため、現在行っている水路保全のための特色ある枠組み・取組み・仕組み、農業遺産に認定された水路と町おこし、生態系サービスの視点から見る水路保全・活用、などの報告を期待します。

第 89 卷第 3 号テーマ「地域資源の活用による中山間地域の地域活性化」(仮)

以前より、わが国の中山間地域では、人口減少と高齢化を大きな要因として、集落としての存在が限界になる地域などが増加しています。このままの状況では、山紫水明と形容され、土地、水や生物などの多様な地域資源を有する日本の中山間地域、すなわち「美しい日本の農村」は、耕作放棄地や廃屋が広がる荒廃した地域となってしまいます。一方、2020年のはじめに発生した新型コロナウイルス感染症による世界的な物流停止はグローバル経済の危うさを顕在化させ、国内地域資源や地域経済の大切さを改めて思い知らされています。

また、中山間地域は、都市地域の上流域に位置するため、地域を支える重要な農地や林地さらには農業水利施設等の維持管理が困難になるなどの事例は、下流域に住む都市住民の防災上

の観点からも大きな問題です。このため、中山間地域の活性化や荒廃の防止は、わが国全体および貴重な地域資源の保全・継承にとって重要度の高い課題です。

農林水産省では農山漁村の活性化施策として、平成19年の「農山漁村活性化法」の施行、平成28年の農山漁村振興交付金制度の創設など、農山漁村の定住者確保、都市間交流を促進し、農山漁村地域の活性化、自立および維持発展を図るため、さまざまな取組みを推進しています。本小特集では、農山漁村活性化法が施行されて一定の年数が経過し、農山漁村振興交付金などを活用したさまざまな事例など、農山漁村に豊富に存在する地域資源を活用した農山漁村地域の地域活性化に関する報文を求めます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2020年7月から2021年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2018年のインパクトファクター (IF) は1.264となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor (20名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical

Report および Short Communication の4種類です。

一方、2020年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

• Editor-in-Chief

Dr. Takao MASUMOTO

Faculty of Bioresource Sciences, Akita Prefectural University, Akita, Japan

• Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Chen-Wuing Liu

National Taiwan University, Taiwan, ROC

• Editors 11カ国から20名

• Editorial Advisors 29名

• Chief Managing Editor

Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea

• Managing Editors

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Masayuki FUJIHARA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Toshiaki IIDA

Graduate School of Agricultural and Life Science,

The University of Tokyo, Japan

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan

編集事務局 (2022年6月まで韓国担当)

・ Dr. Inhong SONG

Department of Landscape Architecture and Rural
Systems Engineering, Seoul National University
1 Gwanak-ro, Gwanak-Gu, Seoul, 151-742, KOREA
TEL : +82-2-880-4581

FAX : Fax: +82-2-873-2087

E-mail : inhongs@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) にな

ります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者である
こと。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載して
います。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000円+税

学生会員 (院生含む) 4,500円+税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず
農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年
度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になってい
ます。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会
員番号を明記の上、お申し込みください。

令和2年度東北支部総会・第62回東北支部研究発表会ならびに 第52回東北支部研修会・第42回地方講習会の開催 (第3報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 開催について

令和2年度東北支部大会は、新型コロナウイルス感染症拡大
防止の観点から、支部総会・研究発表会・支部研修会・地方講
習会について、Web開催とします。

なお、大会内容はオンデマンドで公開し、学会東北支部ホー
ムページの大会サイトよりご視聴いただきます。

2. 期日 令和2年11月9日(月)~22日(日)

3. プログラム概要

(1) 支部総会

主催者挨拶文、学会長挨拶文、事務報告ファイルなど
を配信予定です。

(2) 研究発表会

研究発表要旨集を発行し参加者へ発送します。研究発
表は音声付きスライドファイルなどを配信予定です。な
お、質疑はメールで行う予定です。

(3) 支部研修会

講演方式で行い、動画を配信予定です。

(4) 地方講習会

方法を含めて検討中です。

4. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

「参加申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取り
まとめのうえ、E-mailにてお申し込みください。申込
様式は学会東北支部ホームページ ([http://www.jsidre.
or.jp/tohoku/](http://www.jsidre.or.jp/tohoku/)) よりダウンロードできます。

(2) 参加申込み期間

令和2年8月17日(月)~10月9日(金)

(3) 参加費

会員 1,000円

非会員 2,000円

(学生無料)

(4) 参加費の納入方法

参加申込みと同時に次の銀行口座に全額前納で振込(振
込手数料は、振込人負担)をお願いします。

【振込先】

銀行名 : ゆうちょ銀行 (金融機関コード 9900)

店名 : 八二八 (店番号 : 828)

口座番号 : 普通預金 1803103

口座名 : 公益社団法人農業農村工学会東北支部事務局

シヤ) ノウキ ヨウノウソウコウガクカイトウキジブジムキョク

【留意事項】

振込元が申込書と照合できるように、所属・氏名等を
必ず記入してください。

なお、納入された参加費については、参加の有無にか
かわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(5) 参加申込み先および問合せ先

農業農村工学会東北支部事務局

青森県農林水産部農村整備課 齊藤、後藤

〒030-8570 青森市長島1-1-1

TEL : 017-734-9545

E-mail : noson@pref.aomori.lg.jp

5. 研究発表の申込み

(1) 申込み・原稿受付期間

令和2年8月17日(月)~9月18日(金)

- (2) 申込み・問合せ先
〒036-8561 青森県弘前市大字文京町3
弘前大学農学生命科学部 地域環境工学科 丸居 篤
TEL: 0172-39-3856
Email: marui@hirosaki-u.ac.jp
- (3) 申込み方法
作成した原稿 (PDF形式) と投稿票 (エクセル形式) を、電子メールで上記アドレスへご送信ください。

- (4) 要領
研究発表要旨集原稿の書き方、投稿票ファイルについては、学会東北支部ホームページに掲載していますので、ご参照ください。

6. その他
プログラムの詳細、研究発表会の発表ファイルの作成・提出方法は、決定次第、随時学会東北支部のホームページに掲載します。

第71回関東支部大会の開催 (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



第71回関東支部大会については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、多数の参加者が集う会場での開催ではなく、Web上形式に変更いたします。

併せて申込期限も延長します。

1. 日時

2020年11月18日 (水) より Web上にて要旨公開開始

2. 参加申込方法

(1) 申込方法

「第71回農業農村工学会関東支部大会申込書」に必要事項を記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、E-mail または FAX、郵送にてお申し込みください。

(2) 申込期限 2020年9月30日 (水)

(3) 参加費 無料

(4) 申込様式

申込様式は、埼玉県農林部農村整備課企画担当ホームページ上に掲載してありますので、ファイルをダウンロードしてご利用いただくことも可能です。

所 属	
申込者氏名	
電話番号	
E-mail	
FAX 番号	
所属所在地	〒

3. 講演発表者申込方法

(1) 申込方法

埼玉県農林部農村整備課企画担当ホームページ上に掲載してあります「支部講演会投稿票」に必要事項を記載

し、4.の事務局あてにメール送信してください。

受領確認はメールで行います。

(2) 申込締切日 2020年9月30日 (水)

(3) 原稿締切日 2020年9月30日 (水)

(4) 講演要旨 2枚または4枚 (フォーマットは後日掲載します)

(5) パワーポイント資料の提出

講演発表者は発表資料 (パワーポイント) を各自提出をしてください。

提出期限・形式は支部講演会投稿票の受領確認メールでご連絡します。

(6) 申込先および問合せ先 4.に同じ

(7) その他

幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

講演概要 (200字) は学会誌や学会ホームページなどで公表させていただきます。

4. 問合せ先 (開催県事務局)

埼玉県農林部農村整備課企画担当 辻村, 関口
〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1
TEL: 048-830-4345 FAX: 048-830-4840
E-mail: a4330-12@pref.saitama.lg.jp
URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/a0906/index.html>

5. その他

詳細は本誌、埼玉県農林部農村整備課企画担当ホームページに掲載予定です。

第75回中国四国支部講演会ならびに第44回地方講習会の開催(第2報)

技術者継続教育認定プログラム申請中



1. 開催について

中国四国支部では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、支部講演会・地方講習会について、本誌第5号に掲載した通常形態の開催ではなく、Web上でのオンデマンド形式での開催を検討しております。開催方法の詳細については、今後検討の上、学会中国四国支部のホームページ(<http://jsidre.or.jp/tyugoku/>)および本誌第9号にてお知らせする予定です。

また、講演要旨の締切り・体裁などについても、学会中国四

国支部のホームページにてお知らせします。講演会での発表を希望される方はホームページに掲載される情報にご留意ください。

2. 問合せ先

鳥取大学農学部 齊藤忠臣
〒680-8553 鳥取県鳥取市湖山町南4-101
TEL: 0857-31-5391 FAX: 0857-31-5347
E-mail: tadaomi@tottori-u.ac.jp

第6回理論応用力学シンポジウム—若手研究者シンポジウム—の開催

1. 主催 日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会
合同 力学基盤工学分科会

2. 共催 農業農村工学会ほか23学協会

3. 協賛 (公社)自動車技術会

4. 日時 2020年9月1日(火)~3日(木)
9:00~18:00

5. 場所 オンライン開催

6. プログラム

(1) 9月1日(火)

セッション1-4 固体・流体・熱力学関連分野(1~4)
講演者調整中

(2) 9月2日(水)

セッション2-1 熱流体・固体力学関連分野

真田俊之(静岡大学)

原田周作(北海道大学)

長津雄一郎(東京農工大学)

藤澤和謙(京都大学)

村上陽一(東京工業大学)

セッション2-2 熱流体力学関連分野

杵淵郁也(東京大学)

矢吹智英(九州工業大学)

城田 農(弘前大学)

石本健太(京都大学)

セッション2-3 固体・流体力学関連分野

小林宏充(慶応義塾大学)

安瀬地一作(農業・食品産業技術総合研究機構)

金子暁子(筑波大学)

柴沼一樹(東京大学)

長井宏平(東京大学)

セッション2-4 固体・界面力学関連分野

奥村 大(名古屋大学)

岸本喜直(東京都市大学)

(3) 9月3日(木)

セッション3-1 ナノ・マイクロ・マクロ複合力学

Ettore Barbieri(JAMSTEC)

垂水竜一(大阪大学)

吉本勇太(東京大学)

花崎逸雄(東京農工大学)

宮路智行(京都大学)

セッション3-2 高速流体现象・地震関連力学

田川義之(東京農工大学)

山西陽子(九州大学)

古市幹人(JAMSTEC)

市村 強(東京大学地震研究所)

セッション3-3 融合力学分野(2)

藤原宏志(京都大学)

波田野明日可(東京大学)

山田崇恭(東京大学)

飯盛浩司(名古屋大学)

山中晃徳(東京農工大学)

セッション3-4 全体討論

7. 問合せ先

九州大学大学院工学研究院機械工学部門

高田保之

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744

E-mail: takata@mech.kyushu-u.ac.jp

第12回梶木賞論文の募集

全国農村振興技術連盟では、将来の農業農村整備を担う若手技術者の皆様から、農村振興に対する自らの経験を踏まえた提言・抱負をまとめた、第12回「梶木賞」論文を募集いたします。

1. 主催 全国農村振興技術連盟

後援 農業農村工学会

2. 応募テーマ

農村の直面している課題とその対応策

～（論文の内容を認識できる副題を付してください）～

3. 応募資格

全国農村振興技術連盟会員ならびに農業土木系の学科に在籍している学生

4. 原稿

3,600字程度以内（会誌「農村振興」刷り上がり2ページ内

であれば、写真・図の挿入は自由）

5. 応募締切 2020年10月30日（金）

6. 表彰

全国農村振興技術連盟の定める表彰規定に基づき受賞者が決定されます。入選論文は、東京フォーラム会場で表彰するとともに、会誌「農村振興」掲載されます。

・最優秀賞1点（表彰状および賞品）

・優秀賞2点（表彰状および賞品）

7. 応募先・問合せ先

全国農村振興技術連盟 企画部

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館内

TEL：03-3434-5407 FAX：03-3575-7176

E-mail：kajiki@n-renmei.jp

第23回（2021年）「日本水大賞」の募集

1. 目的

日本水大賞は、21世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

2. 対象範囲

(1) 対象となる活動分野

水循環系の健全化や水災害に対する安全性の向上に寄与すると考えられる活動で、水防災、水資源、水環境、水文化、復興のような分野における諸活動（研究、技術開発を含む）を対象とします。

(2) 対象となる活動主体

水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校、企業、団体、個人、行政の方々が実施する諸活動を対象とします。なお、個人、法人、グループの種別、年齢、職業、性別、国籍等を問いません。

3. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞が授与され、広く公表されます。なお、副賞は受賞活動をさらに継続・発展していただくよう授与されます。

①大賞【グランプリ】（賞状・副賞200万円）

②大臣賞（賞状・副賞50万円）

【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】【厚生労働大臣賞】

【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】

ほか

4. 選定の方法等

日本水大賞委員会のもとに、上記の賞を選考するために審査

部会を設置し、表彰対象となる活動が審査され、最終的には日本水大賞委員会が決定されます。

5. 募集期間

2020年7月7日（火）～10月31日（土）（郵送の場合は当日消印有効）

6. 応募方法

応募用紙（4枚：ホームページからダウンロードしてください）に必要事項をご記入の上、応募用紙および添付資料を送付または持参してください。応募用紙および添付資料が電子データの場合は、E-mailでも応募を受け付けます（メール送信後、必ず確認の電話をしてください）。

応募方法の詳細はホームページを参照してください。

7. 主催等

(1) 主催 日本水大賞委員会

名誉総裁 秋篠宮皇嗣殿下

委員長 毛利 衛（日本科学未来館館長）

国土交通省

(2) 後援（予定） 農業農村工学会ほか40団体

(3) 協賛（予定）「川の日」実行委員会ほか7団体

8. 送付先・問合せ先

（公社）日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-5 麹町E.C.Kビル3階

TEL：03-3238-9771 FAX：03-3288-2426

E-mail：taisyo@japanriver.or.jp

担当：塚本（平日9：15～17：30）

ホームページ：http://www.japanriver.or.jp/taisyo/